

産業競争力会議（第 26 回）後の
石原経済再生担当大臣記者会見要旨

- 日 時 : 平成 28 年 4 月 19 日（火） 19 : 35 ~ 19 : 45
- 場 所 : 中央合同庁舎 8 号館 1 階 S 101・103 会見室

1. 冒頭発言

産業競争力会議の概要を申し上げます。本日は、「名目 GDP600 兆円に向けた成長戦略」についての議論です。民間議員の発言を中心にご紹介いたします。

シェアリングエコノミー、フィンテックは新たなビジネスチャンス。IT 原則を徹底すべき。

観光を自動車に次ぐ最大産業にするため、受入体制整備が必要。行政手続き簡素化は、国内企業にとっても有益。

仕事と育児を両立しようとのマインドは出来つつある。長時間労働是正が生産性向上のために必要。

第 4 次産業革命には、データの共有が必要。

農業事業者の新たな取組を徹底的に応援すべき。

初等中等教育の段階からアクティブラーニングとコミュニケーション能力の向上が重要。

労働市場の流動化、民間の自前主義・秘密主義からの脱却が必要。官民で成長戦略の PDCA を回していくべき。

リアルからサイバーへの発想の転換が必要。プログラミング教育の必修化は不可欠。他方、高度外国人材受入れは短期的に効果がある。新たな規制改革は、目標や時期を明確にすべき。

これが民間議員からの主な発言です。この後、関係閣僚からの発言がありました。

最後に総理から発言がございました。簡単にご紹介します。

「第 2 ステージの成長戦略の挑戦は、有望成長市場の開拓、生産性革命、人材強化。「GDP600 兆円」に向けて、官民挙げて新たな有望成長市場を開拓する「官民戦略プロジェクト 10」を提示した。第 4 次産業革命の大波は、若者に「社会を変え、世界で活躍する」チャンスを与えるもの。新たな規制・制度改革メカニズムを導入する。初等中等教育からプログラ

ミング教育を必修化し、ITを活かして習熟度別学習を導入する。あわせて、世界最速の「日本版高度外国人材グリーンカード」を導入する。新たな成長戦略は、日本の若者に無限の可能性を切り拓くものでなければならない。本日の議論も踏まえて、新たな成長戦略を取りまとめる。」

ということでした。

本日の議論を踏まえ、次回の産業競争力会議において、成長戦略の素案をお示しする予定です。

私からは、以上です

2. 質疑応答

(問) 今回様々な数値目標を示されたと思います。かなり意欲的な目標かと思いますが、これをどうやって実現していくのかということが、今回資料からは見えないのですが、大臣はどのようにお考えでしょうか。

(答) 今ご指摘いただいたような意見は、民間議員からもありました。良いことを書いてくれた、しかしどうやって具体化していくのか。工程表も含めて作っていかなければならないと事務方に指示をして、今日の御意見も踏まえて素案にします。次回か次々の会議には、工程表も含めてより具体的に今のご質問にお答えできる材料がそろっていると思います。

(問) 新たな規制制度改革について、民間議員の方からも行政手続の簡素化に有益との意見も出たとのことでしたが、大臣は新たな規制改革にどのような意義があるとお考えでしょうか。

(答) 新たな規制制度改革は、新しい試みでスタートすることになるかと思います。7月に規制改革会議の最終局面を迎えることになりましたが、その先の規制改革のあり方、これを新たな規制改革の分野で扱っていただくことになりました。そしてもう一点、大変重要なご指摘がありました。行政手続の点です。この点について、今日はやはり複数の委員から意見が出されました。外国の企業の創業、あるいは投資、こういうことだけではなくて、日本に存在する企業も行政手続の煩雑さには閉口することがあるというような発言が複数ありました。IT国家であるならば、IT化していくことも肝要であるという違う視点からの意見もありました。議論が盛り上がったところです。

(問) 話は変わりますが、先ほど谷垣幹事長と衆参の国対委員長が会談されまして、TPP協定案について、審議が遅れており、会期の延長も難しいということで、今国会での成立は困難との認識で一致したそうなのですが、大臣の受け止めをお願いします。

(答) 今はじめて聞いた話で、幹事長からそのような指示は来ていませんし、明日も審議が決まっています。明日の審議が終わるとおよそ 20 時間審議をさせていただきます、論点はかなり煮詰まってきたつあります。一日一日真摯に答弁させていただき、国民の皆様と、野党の皆様方の理解を深めていただくよう丁寧に対応してまいりたいと考えています。